

# 児童生徒の学ぶ“姿”を授業改善の柱に据えて

～広島版「学びの変革」授業参観シートの活用～

## “教師がどう指導したか”から，“児童生徒のどのような姿が表れたか”へ

この単元では、児童（生徒）が〇〇という姿になることを目指したい!!

授業者



参観者



Aさんに〇〇の姿が見られたわ。△△という手立が効果的だったのでは？

各学校における課題発見・解決学習をはじめとした取組により、各教科等の授業改善が進み、児童生徒の学びの質が徐々に向上しつつあることが、様々な調査結果からも伺えます。

例えば、令和3年度 全国学力・学習状況調査において、

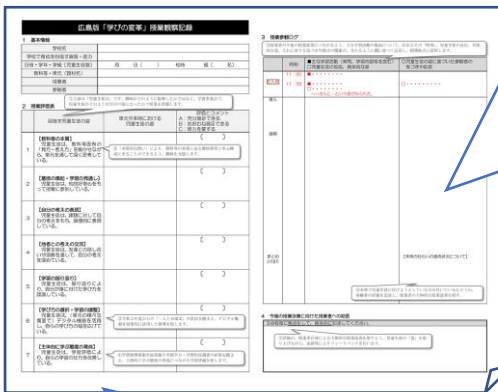
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」児童生徒が、前回調査に比べ増加。(小68.6%→75.0%, 中68.3%→77.6%)
- 小中学校とも、全ての記述式の問題(小7問, 中9問)で、無解答率が全国平均より低い。…

一方で、授業改善について、全ての児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に至っていないことや、学校間の取組に差がみられることなどの課題も残されています。

日頃の授業改善を進めるためには、管理職による授業参観や、校内研修(授業研究)の議論の質(視点)の向上が不可欠であり、その議論の中心に児童生徒の実際の“姿”があることが重要です。

## 「学びの変革」授業参観シートを作成しました!

そこで、「学びの変革」の授業において目指す、児童生徒の具体的な“姿”を取り上げながら、授業参観やその後の授業者への指導助言、校内研修等に活用できる「広島版『学びの変革』授業参観シート」を作成しました。【別紙参照】



### 授業参観の視点

- 本時の授業の工夫や改善点について、実際の児童生徒の姿を取り上げながらどのように授業者に伝えるか。
- 「学びの変革」の趣旨を踏まえ、「自校で育成を目指す資質・能力」につながる授業の工夫は、どこに表れているか。
- 「個別最適な学び」の視点から、児童生徒一人一人の学びの状況を踏まえ、児童生徒が学習内容や学習方法を自分で選択・決定したり、自らの学びを振り返ったりする場を、授業の中でどのように効果的に設定しているか。
- 児童生徒が教科等固有の「見方・考え方」を働かせて深く考える等、当該教科等の本質に迫っていた授業場面はどこか。

### 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善から期待される児童生徒の姿

- 児童生徒は、教科等固有の「見方・考え方」を働かせながら、単元を通して深く思考している。
- 児童生徒は、知的好奇心をもって授業に参加している。
- 児童生徒は、課題に対して自分の考えをもち、論理的に表現している。
- 児童生徒は、友達との話し合いや協働を通して、自分の考えを深めている。
- 児童生徒は、振り返りにより、自分が身に付けた学び方を認識している。
- 児童生徒は、(単元の様々な場面で)デジタル機器を活用し、自らの学び方の幅を広げている。
- 児童生徒は、学習評価により、自らの学習の仕方を改善している。



- **授業参観や授業研究の際に活用し、児童生徒の“姿”を中心にした授業改善に取り組みましょう!**
  - ・「**学びの変革**」推進協議会(第2回以降)でも、趣旨や活用方法を取り上げます。
  - ・本記録に示された視点等を参考に、児童生徒や学校の実態に応じて自校の取組に取り入れましょう。